

ガザ点灯救急車に攻撃

映像公開 イスラエル軍一転「ミス」

パレスチナ自治区ガザで救護活動を担うパレスチナ赤新月社（PRCS）は5日、赤色灯などを点灯させる緊急車両を



パレスチナ赤新月社が公開した映像。イスラエル軍の攻撃により死亡したとする救急隊員が撮影したもので、緊急車両がヘッドライトや赤色灯をつけて走行している＝AP

イスラエル軍が攻撃する映像を公開した。軍側はこれまで不審な車を狙ったものだと主張していたが、一部メディアに「ミ

スだった」と認めた。ガザでは医療従事者の犠牲が相次いでいて、イスラエルへの批判が高まっている。

これらの緊急車両は3月23日にガザ南部ラファで攻撃を受け、その後15人の遺体が収容された。死亡した隊員の携帯電話に残されていた映像では、赤色灯などを点滅させた救急車や消防車の列がヘッドライトを頼りに夜道を走行。突然、銃声とともにフロントガラスが割れ、画面は暗転した。PRCS側は4日、隊員が「私はただ人々を助けたかっただけ」という最期の言葉を残していたと明らかにし、独立した

25.4.7.A

調査の必要性を訴えた。イスラエル軍の報道官は当初、「ヘッドライトも緊急信号もない不審な車両」が近づいてきたために発砲したと主張していた。しかし英BBCは5日、救急車のライトは点灯しており、武装勢力とも関係がないとする生存者の証言を報道。軍当局者が取材に対し、兵士らが「ミスを犯した」ことを認めたと伝えた。また、国連人道問題調

整事務所（OCHA）の4日の発表によると、一昨年の戦闘開始から409人の援助関係者が殺害されているという。一方、イスラエル首相府は、ネタニヤフ首相が6日に米国に向けて出発し、トランプ大統領と協議すると発表した。「世界的に関税が課された後、招待された最初の首脳になることに感謝している」とつづった。（エルサレム＝小早川遥平）

出典：「朝日新聞」2025年4月7日付

仮想敵国に「中国」初明示

日米演習 台湾有事へ強い危機感

自衛隊と米軍が実施中の最高レベルの演習で、仮想敵国を初めて「中国」と明示していることが4日、複数の政府関係者への取材で分かった。仮称を用いていた過去の演習と比べ、大きく踏み込んだ想定にした。演習はコンピュータを使用するシミュレーションで、シナリオの柱は台湾有事。防衛省は特定秘密保護法に基づき、シナリオを特定秘密に指定したもようだ。数年以内に中国が台湾に武力侵攻するのではないかと懸念が高まっており、今回の敵国名変更は日米の強い危機感の表れといえる。

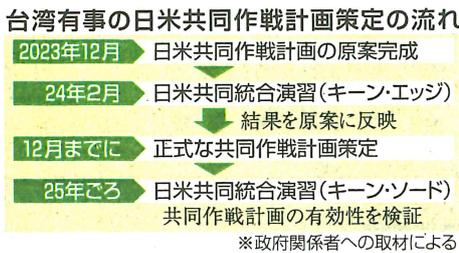
シナリオは特定秘密か

日米間には有事を想定した共同作戦計画が複数存在する。このうち、台湾有事に関する作戦計画の原案は昨年末に完成した。キーン・エッジと呼ばれる今回の演習の結果を原案に反映させ、今年末までに正式な共同作戦計画策定が予定されている。2025年ごろに部隊を実際に動かす演習(キーン・ソード)を実施し、作戦計画の有効性を検証する流れだ。

緊張低減させる努力を

自衛隊と米軍が実施している「仮想敵国を「中国」と明示したのは、中国による台湾侵攻が切迫しているとの米軍の危機感があり、防衛省・自衛隊にも強い影響を与えたことが背景にある。政治は軍事に流されず、冷静に米

国、中国、台湾との外交を主軸として緊張を低減させる努力を続ける必要がある。2021年3月、米インド太平洋軍の前司令官が台湾有事を「6年以内」と言及して以降、米軍幹部からは「米中は25年に戦うことになる」という危言が相次いでいる。昨年2月、米中央情報局(CIA)長官が「習近平国家主席が27年までに台湾侵攻の準備を指示した」と明言。その後、米情報機関トップの国家情報長官も「台湾有事で27年を目標に中国が軍備加速」と続いた。「米軍は本気だ」という強いメッセージを受け止めた。中国明示のシナリオを見た陸上自衛隊幹部が指摘する。別の幹部は「これで対中国のフェーズ(段階)が確実に一段高まった」と断言した。台湾有事対応を「喫緊の課題」として、正式な共同作戦計画の策定を含め急ピッチで準備する自衛隊と米軍の制服組幹部たち。軍事的合理性だけを優先する彼らの勢いに押され、中国との緊張をさらに高めてしまうことがあってはならない。(共同通信編集委員 石井暁)



※政府関係者への取材による

出典：「琉球新報」2024年2月5日付

「離島防衛」中国けん制

日米豪指揮所演習始まる

【東京】陸上自衛隊と米軍、オーストラリア軍による島しょ防衛を想定した共同指揮所演習「ヤマサクラ」(YS) 87の訓練開始式が6日、朝霞駐屯地(東京都・埼玉県)で開催された。沖縄に駐留する米海兵隊第3海兵遠征軍(3MEF)が初めて司令部ごと正式に参加する。「特定の国や地域を念頭に置いている」というのが陸自の

公式説明だが、中国をけん制する狙いがあるとみられる。開始式で山根寿一陸上総隊司令官は「YSは1982年の開始以来、国際情勢を踏まえて訓練内容が着実に進化している。日米豪の絆の強さを発信し、東アジアにおける抑止力・対処力をより強固にする」と語った。

開始式の後、日米豪それぞれの代表者による共同記者会見が開かれた。ジョエル・ヴァウル米太平洋陸軍副司令官は「中国、北朝鮮、ロシア」と具体的に列挙し「対抗するため、この地域でパートナー国、同盟国として肩を並べて抑止すること

が必須だ」「日本は、自由の剣が峰、最前線だ」と強調した。アシュリー・コリンバーン豪陸軍第1師団長も出席した。

(明真南斗)



握手を交わす山根寿一陸上総隊司令官(中央)、ジョエル・ヴァウル米太平洋陸軍副司令官(右)、アシュリー・コリンバーン豪陸軍第1師団長=6日、朝霞駐屯地

同記者会見が開かれた。ジョエル・ヴァウル米太平洋陸軍副司令官は「中国、北朝鮮、ロシア」と具体的に列挙し「対抗するため、この地域でパートナー国、同盟国として肩を並べて抑止すること

陸自指揮所演習 南西諸島を想定

陸幕長、講演で説明

【東京】陸上自衛隊最大規模の日米豪共同指揮所演習「ヤマサクラ」(YS) 87について、森下泰臣陸上幕僚長は18日に東京都内での講演で紹介した際「シナリオを南西諸島とするなど、よりリアルな想定で実施している」と語った。演習について公式答弁上は「特定の国や地域を想定していない」とするのが通例で、演習の想定場所を明

言するのは珍しい。

共同指揮所演習「ヤマサクラ」は従来、日米両国で実施してきた。2023年からオーストラリア軍が加わって3カ国演習となった。24年12月に実施した「ヤマサクラ87」は沖縄に駐留する米海兵隊第3海兵遠征軍

(3MEF) が初めて司令部ごと正式に参加した。森下陸幕長は18日、都内の三田共用会議所で24年度陸上自衛隊フォーラムの一環で「陸上自衛隊の取り組みと今後の方向性」と題して講演した。

(明真南斗)